十二の贈り物

作詞　**J'Soul**（浅羽一）

一月は初めての太陽を閉じこめて　一枚きりの写真を贈ろう
二月は二度と来ぬ今日の日の儚さを　雪の結晶の絵にして贈ろう
三月は歩みゆく昨日との思い出の　幸運を祈る花を贈ろう
四月は頬染めた君の目を見つめながら　桃色の小さな貝を贈ろう
そして五月はさわやかな風が　君の髪を撫でたから
両手一杯に集めた風の　薫りを香水にして贈ろう
一つ一つに愛していると言葉を添えながら
季節は何度も繰り返し訪れるけど
僕の一生で愛したい人には　たった一度しか出会えなかった
季節が何度繰り返し訪れようと
僕が抱きしめて愛を知った人は　たった一人だけ君しかいない　■

六月は新緑を濡らす雨音が歌う　切なさを手紙に綴り贈ろう
七月は砂浜に寄せるさざ波の彼方　遠い異国の金貨を贈ろう
八月は闇を彩る花火のきらめきの　欠片を首飾りにして贈ろう
九月は丸い月が君を映したから　銀色に光る鏡を贈ろう
そして十月は目の前の生命(いのち)が　色鮮やかに染まるから
移ろい続ける時間(とき)の一瞬を　永久(とわ)に変えて口紅を贈ろう
全てのものに愛していると想いを込めながら
■繰り返し

十一月は温かな毛布で君を包み　安らかに眠る横顔に口づけと
夢だけで知る母が残した　薄いベッコウの唐櫛(からくし)を贈ろう
…そして十二月は聖なる星空をその身に宿した　青金石(ラピスラズリ)の指輪を贈ろう

■繰り返し